様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第１面）

産業廃棄物処理計画書

2024 年 6 月 24 日

富山県知事

新 田 八 朗 殿

提出者

住 所 富山県黒部市天神新8番地

氏 名 東邦チタニウム株式会社 黒部工場

工場長 尾崎 雅志

電話番号 0765（54）9381

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第９項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	東邦チタニウム株式会社 黒部工場
事業場の所在地	富山県黒部市天神新8番地
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	化学工業
② 事業の規模	別紙 産業廃棄物処理計画 1.事業概要参照。
③ 従業員数	45名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1 工程図参照。

（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

（管理体制図）
別紙　特別管理産業廃棄物及び産業廃棄物処理計画参照。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

【前年度（ 令和5 年度）実績】

産業廃棄物の種類	汚泥（プレスケーキ）	汚泥（乾燥汚泥）
排出量	1,286 t	7.8 t

（これまでに実施した取組）
汚泥中の不純物を除去した後、焼成することで有価物にするテストを継続中。

②計画

【目標】

産業廃棄物の種類	汚泥（プレスケーキ）	汚泥（乾燥汚泥）
排出量	1000 t	30 t

（今後実施する予定の取組）
有価物のサンプルを複数の会社に評価依頼しており、2024年度も有価物として販売する仕組みを構築する。

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）

②計画

（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（　令和5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（プレスケーキ）	汚泥（乾燥汚泥）
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（プレスケーキ）	汚泥（乾燥汚泥）
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（　令和5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（プレスケーキ）	汚泥（乾燥汚泥）
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	―　t	―　t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（プレスケーキ）	汚泥（乾燥汚泥）
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	―　t	―　t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

【前年度（　令和5 年度）実績】

産業廃棄物の種類	汚泥（プレスケーキ）	汚泥（乾燥汚泥）
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	― t	― t

（これまでに実施した取組）

②計画

【目標】

産業廃棄物の種類	汚泥（プレスケーキ）	汚泥（乾燥汚泥）
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	― t	― t

（今後実施する予定の取組）

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

【前年度（　令和5 年度）実績】

産業廃棄物の種類	汚泥（プレスケーキ）	汚泥（乾燥汚泥）
全処理委託量	1,286 t	7.8 t
優良認定処理業者への処理委託量	1,269 t	7.8 t
再生利用業者への処理委託量	1,286 t	7.8 t
認定熱回収業者への処理委託量	1,286 t	7.8 t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t

（これまでに実施した取組）

②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	汚泥（プレスケーキ）	汚泥（乾燥汚泥）	
	全処理委託量	1000 t	30 t	
	優良認定処理業者への処理委託量	1000 t	30 t	
	再生利用業者への処理委託量	1000 t	30 t	
	認定熱回収業者への処理委託量	1000 t	30 t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	
	（今後実施する予定の取組）			
※事務処理欄				

備考

1　前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに１枚作成すること。

2　当該年度の６月30日までに提出すること。

3　「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
(2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
(3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

請じまと。

4　「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

中間

5　「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施令第６条の11第２号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の３の３第１項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者の焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

量行収あへ

6　それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物種類が３以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。

とのの入

7　※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
（管理体制図） 別紙　特別管理産業廃棄物及び産業廃棄物処理計画参照。			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	無機汚泥スラリー	有機汚泥スラリー
	排出量	274.7 t	150.3 t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	無機汚泥スラリー	有機汚泥スラリー
	排出量	270 t	150 t
	（今後実施する予定の取組）		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）		
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	無機汚泥スラリー	有機汚泥スラリー
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	無機汚泥スラリー	有機汚泥スラリー
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	無機汚泥スラリー	有機汚泥スラリー
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	―　t	―　t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	無機汚泥スラリー	有機汚泥スラリー
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	―　t	―　t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	無機汚泥スラリー	有機汚泥スラリー
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	― t	― t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	無機汚泥スラリー	有機汚泥スラリー
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	― t	― t
	（今後実施する予定の取組）		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	無機汚泥スラリー	有機汚泥スラリー
	全処理委託量	270 t	150 t
	優良認定処理業者への処理委託量	270 t	150 t
	再生利用業者への処理委託量	270 t	150 t
	認定熱回収業者への処理委託量	― t	― t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	― t	― t
	（これまでに実施した取組）		

②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	無機汚泥スラリー	有機汚泥スラリー	
	全処理委託量	250 t	130 t	
	優良認定処理業者への処理委託量	250 t	130 t	
	再生利用業者への処理委託量	250 t	130 t	
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t	
	（今後実施する予定の取組）			
※事務処理欄				

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	
	（管理体制図） 別紙　特別管理産業廃棄物及び産業廃棄物処理計画参照。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃油（エマルジョン）
	排出量	64.6 t	1.2 t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃油（エマルジョン）
	排出量	60 t	1 t
	（今後実施する予定の取組）		

産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃油（エマルジョン）
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	― t	― t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃油（エマルジョン）
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	― t	― t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃油（エマルジョン）
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	― t	― t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	― t	― t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃油（エマルジョン）
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	― t	― t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	― t	― t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃油（エマルジョン）
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃油（エマルジョン）
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（今後実施する予定の取組）		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃油（エマルジョン）
	全処理委託量	64.6　t	1.2　t
	優良認定処理業者への処理委託量	64.6　t	1.2　t
	再生利用業者への処理委託量	64.6　t	1.2　t
	認定熱回収業者への処理委託量	―　t	―　t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	―　t	―　t
	（これまでに実施した取組）		

②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	廃油	廃油（エマルジョン）	
	全処理委託量	60 t	1 t	
	優良認定処理業者への処理委託量	60 t	1 t	
	再生利用業者への処理委託量	60 t	1 t	
	認定熱回収業者への処理委託量	60 t	1 t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	
	（今後実施する予定の取組）			
※事務処理欄				

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
（管理体制図） 別紙　特別管理産業廃棄物及び産業廃棄物処理計画参照。			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	廃プラ（ウエス）
	排出量	3.9 t	1.7 t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	廃プラ（ウエス）
	排出量	3.5 t	1.5 t
	（今後実施する予定の取組）		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）		
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）		

（第３面）

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類_	廃プラ	廃プラ（ウエス）
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類_	廃プラ	廃プラ（ウエス）
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類_	廃プラ	廃プラ（ウエス）
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	―　t	―　t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類_	廃プラ	廃プラ（ウエス）
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	―　t	―　t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	廃プラ（ウエス）
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	廃プラ（ウエス）
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（今後実施する予定の取組）		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	廃プラ（ウエス）
	全処理委託量	3.9　t	1.7　t
	優良認定処理業者への処理委託量	3.9　t	―　t
	再生利用業者への処理委託量	3.9　t	1.7　t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	（これまでに実施した取組）		

②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類		廃プラ	廃プラ（ウエス）
	全処理委託量		3.5 t	1.5 t
		優良認定処理業者への処理委託量	3.5 t	— t
		再生利用業者への処理委託量	3.5 t	1.5 t
		認定熱回収業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	（今後実施する予定の取組）			
※事務処理欄				

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	
	（管理体制図） 別紙　特別管理産業廃棄物及び産業廃棄物処理計画参照。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず及び陶磁器くず（ロックウール・ガラスウール）	ガラスくず及び陶磁器くず（活性炭）
	排出量	0.02 t	0.33 t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず及び陶磁器くず（ロックウール・ガラスウール）	ガラスくず及び陶磁器くず（活性炭）
	排出量	0.05 t	0.3 t
	（今後実施する予定の取組）		

産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）

（第３面）

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず及び陶磁器くず（ロックウール・ガラスウール）	ガラスくず及び陶磁器くず（活性炭）
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	― t	― t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず及び陶磁器くず（ロックウール・ガラスウール）	ガラスくず及び陶磁器くず（活性炭）
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	― t	― t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず及び陶磁器くず（ロックウール・ガラスウール）	ガラスくず及び陶磁器くず（活性炭）
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	― t	― t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	― t	― t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず及び陶磁器くず（ロックウール・ガラスウール）	ガラスくず及び陶磁器くず（活性炭）
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	― t	― t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	― t	― t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

【前年度（　2023 年度）実績】

産業廃棄物の種類	ガラスくず及び陶磁器くず（ロックウール・ガラスウール）	ガラスくず及び陶磁器くず（活性炭）
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	― t	― t

（これまでに実施した取組）

②計画

【目標】

産業廃棄物の種類	ガラスくず及び陶磁器くず（ロックウール・ガラスウール）	ガラスくず及び陶磁器くず（活性炭）
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	― t	― t

（今後実施する予定の取組）

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

【前年度（　2023 年度）実績】

産業廃棄物の種類	ガラスくず及び陶磁器くず（ロックウール・ガラスウール）	ガラスくず及び陶磁器くず（活性炭）
全処理委託量	0.02 t	0.33 t
優良認定処理業者への処理委託量	0.02 t	― t
再生利用業者への処理委託量	0.02 t	0.33 t
認定熱回収業者への処理委託量	― t	― t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	― t	― t

（これまでに実施した取組）

②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	ガラスくず及び陶磁器くず（ロックウール・ガラスウール）	ガラスくず及び陶磁器くず（活性炭）	
	全処理委託量	0.05 t	0.3 t	
	優良認定処理業者への処理委託量	0.05 t	— t	
	再生利用業者への処理委託量	0.05 t	0.3 t	
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t	
	（今後実施する予定の取組）			
※事務処理欄				

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	
	（管理体制図） 別紙　特別管理産業廃棄物及び産業廃棄物処理計画参照。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類（ケイ酸カルシウ	がれき類（コンクリート）
	排出量	0.07 t	0.76 t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類（ケイ酸カルシウム）	がれき類（コンクリート）
	排出量	0.1 t	0.5 t
	（今後実施する予定の取組）		

産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類（ケイ酸カルシウ	がれき類（コンクリート）
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類（ケイ酸カルシウム）	がれき類（コンクリート）
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類（ケイ酸カルシウム）	がれき類（コンクリート）
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	―　t	―　t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類（ケイ酸カルシウム）	がれき類（コンクリート）
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	―　t	―　t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類（ケイ酸カルシウム）	がれき類（コンクリート）
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	― t	― t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類（ケイ酸カルシウム）	がれき類（コンクリート）
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	― t	― t
	（今後実施する予定の取組）		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類（ケイ酸カルシウム）	がれき類（コンクリート）
	全処理委託量	0.07 t	0.76 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0.07 t	0.76 t
	再生利用業者への処理委託量	0.07 t	0.76 t
	認定熱回収業者への処理委託量	― t	― t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	― t	― t
	（これまでに実施した取組）		

②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	がれき類（ケイ酸カルシウム）	がれき類（コンクリート）	
	全処理委託量	0.1 t	0.5 t	
	優良認定処理業者への処理委託量	0.1 t	0.5 t	
	再生利用業者への処理委託量	0.1 t	0.5 t	
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t	
	（今後実施する予定の取組）			
※事務処理欄				

（第２面）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	
	（管理体制図） 別紙　産業廃棄物処理計画参照。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ゴムくず（ゴム）	木くず（パレット）
	排出量	0.16 t	0.94 t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ゴムくず（ゴム）	木くず（パレット）
	排出量	0.3 t	0.5 t
	（今後実施する予定の取組）		

産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ゴムくず（ゴム）	木くず（パレット）
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ゴムくず（ゴム）	木くず（パレット）
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ゴムくず（ゴム）	木くず（パレット）
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	―　t	―　t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ゴムくず（ゴム）	木くず（パレット）
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	―　t	―　t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ゴムくず（ゴム）	木くず（パレット）
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	― t	― t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ゴムくず（ゴム）	木くず（パレット）
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	― t	― t
	（今後実施する予定の取組）		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（　2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ゴムくず（ゴム）	木くず（パレット）
	全処理委託量	0.16 t	0.94 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0.16 t	0.94 t
	再生利用業者への処理委託量	0.16 t	0.94 t
	認定熱回収業者への処理委託量	― t	― t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	― t	― t
	（これまでに実施した取組）		

②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	ゴムくず（ゴム）	木くず（パレット）	
	全処理委託量	0.3 t	0.5 t	
	優良認定処理業者への処理委託量	0.3 t	0.5 t	
	再生利用業者への処理委託量	0.3 t	0.5 t	
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t	
	（今後実施する予定の取組）			
※事務処理欄				

特別管理産業廃棄物及び
産業廃棄物処理計画

東邦チタニウム株式会社

黒部工場

― 目　次 ―

1．事業概要 …… 1

2．計画期間 …… 2

3．管理体制 …… 2

4．管理方針 …… 3

5．廃棄物処理対策 …… 4

6．関連推進事項 …… 4

１．事業概要

（１）資本金及び従業員数

・資本金　：　１１９億６３百万円

・従業員数：　１１９５名　（黒部工場：45名）

（２）生産量及び出荷額

表１　令和５年度実績

	生産量	売上高
触媒生産量	黒部工場	41億　27百万円
	約　116.6ｔ	

（３）製造概要

当黒部工場では、汎用樹脂であるポリプロピレン製造用の原料となる触媒を製造している。

（４）製造フロー及び廃棄物発生フロー

別紙１に製造フロー及び廃棄物発生フローを示す。

（５）工場配置図

別紙２に工場配置図を示す。

（６）事業展望

チタン事業の製品販売は引き続き堅調に推移しましたが、触媒・化学品事業においては海外の景気低迷長期化等により販売は低調に。一方、為替円安による収益効果はあるもののコスト面では、輸入原材料・副資材コストの高まりが、収益を大きく圧迫する要因となりました。

（７）生産設備の状況

顧客需要に対応するため平成１９年４月より生産ラインを１系列追加し、能力を１．５倍とした。平成１０年より稼動している生産ラインは適宜補修を行ない、順調に稼動を続けている。

（８）連絡先

〒９３９－００４２
富山県黒部市天神新８番地
東邦チタニウム株式会社　黒部工場　　担当：製造チームリーダー
電　話：０７６５－５４－９３８１
ＦＡＸ：０７６５－５４－９３８２

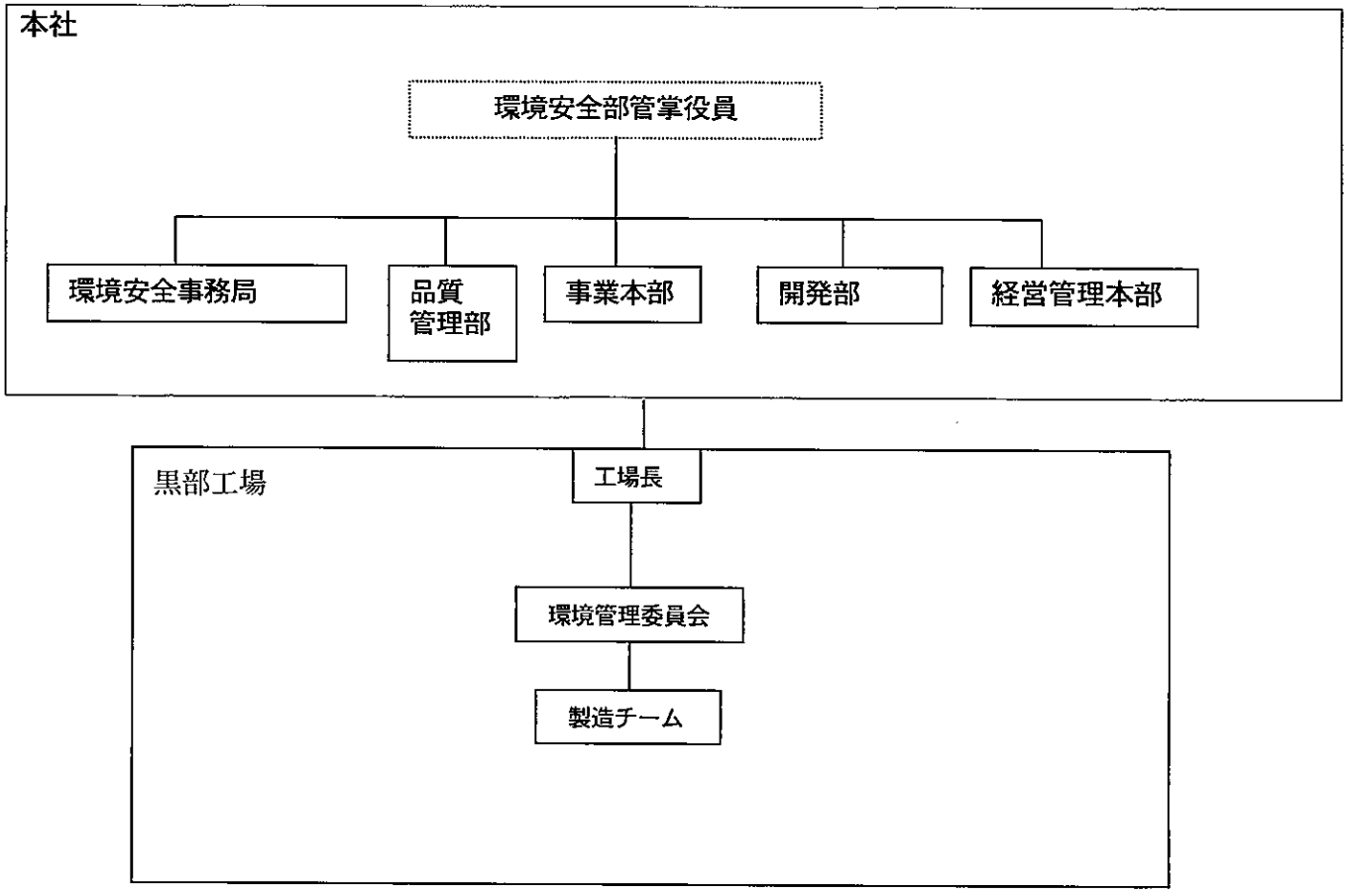
２．計画期間

計画期間は、令和６年度から７年度までの１年とした。

３．管理体制（廃棄物処理に係る管理体制等）

統括責任者		工場長
役割	環境管理委員会	○廃棄物処理に関する検討 廃棄物の発生抑制、減量化、循環利用(再使用・再生利用・熱回収)、適正処理の推進、計画的な廃棄物の管理運営を行う上で必要な事項を検討する。 ・委員長―工場長　　・委員― ・事務―環境管理事務（工場長が指名）
		○廃棄物処理方針の策定 ○工場の廃棄物に関する規程の策定・改廃 ○廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認
		○廃棄物処理計画の作成 ○廃棄物管理状況の把握と改善策の検討 ○産業廃棄物処理施設の運転・維持管理状況の把握 ○処理業者、再生利用業者の調査、選定及び管理 ○委託契約の締結 ○産業廃棄物管理票の交付、管理 ○特別管理産業廃棄物管理責任者、技術管理者等の設置 ○監督官庁への各種報告 ○社員、協力会社に対する教育、啓発 ○その他関係する事項

廃棄物管理組織



４．管理方針

① 法令の遵守等

産業廃棄物の適正処理を確保するため、関連する法令、その他の規則を遵守するとともに、行政の環境施策に協力する。

② 排出事業者の処理責任

産業廃棄物の処理責任が自らにあることを十分に認識するとともに、廃棄物処理法や循環型社会形成推進基本法等の関係法令に関する趣旨を従業員に対しても周知することにより、産業廃棄物に関する主体的取り組みを促進する。

また、産業廃棄物の処理を処理業者に委託する場合であっても、収集運搬から最終処分に至るまでマニフェストにより確認し、適正に管理する。

③ 目標の設定

発生量の抑制、減量化、循環利用の推進、最終処分量の削減について、数値目標及びその達成期間を定め実施する。また、これら処理に関する目標及び計画は、定期的に必要な見直しを行う。

④ 廃棄物処理の取り組み

廃棄物の処理について次に掲げる事項を実施し、また、協力会社にも必要な指導を行う。

ア：発生抑制

・工程内リサイクル率を向上する。

・発生抑制を考慮した製造方法を検討する。

・ 製造工程の変更により、再資源化できない原料や、処理が困難な薬品の使用を控える。

イ：その他

・処理内容を確認し、処理業者と適正な委託契約を締結する。

・汚泥の再資源化に関する技術的検討を推進する。

⑤ 教育・研修等

発生する廃棄物の種類、発生状況、処理方法、処理に関する留意事項を整理し、従業員等に定期的に教育、研修等を行う。

⑥ 情報公開

廃棄物処理に関する信頼性を確保するため、廃棄物の発生や処理状況について情報の公開に努める。

(2)環境全般

① 原料、エネルギー、労働力、生産設備等の生産に係わる全ての資源・技術を最も合理的かつ効率的に活用することにより、環境負荷の最小化に努める。

② 地球や地球環境の健全化のため、常に努力し、地球社会との共存共栄を目指す。

５．廃棄物処理対策

(1)廃棄物処理の現状

①溶剤は蒸留塔で精製再利用し、一部重質分を廃油として搬出している。

②排水中の固形分を脱水し、汚泥として搬出している。

(2)廃棄物処理の計画

①廃油

委託（処理業者施設）　焼却

②汚泥

委託（処理業者施設）　分級、脱水、乾燥後 原料として再利用

６．関連推進事項

(1)環境管理・監査システムの導入

平成１６年度４月、ＩＳＯ－１４００１認証登録。登録継続中

(2)自主管理基準の設定

(3)情報の公開

(4)ゼロエミッション化

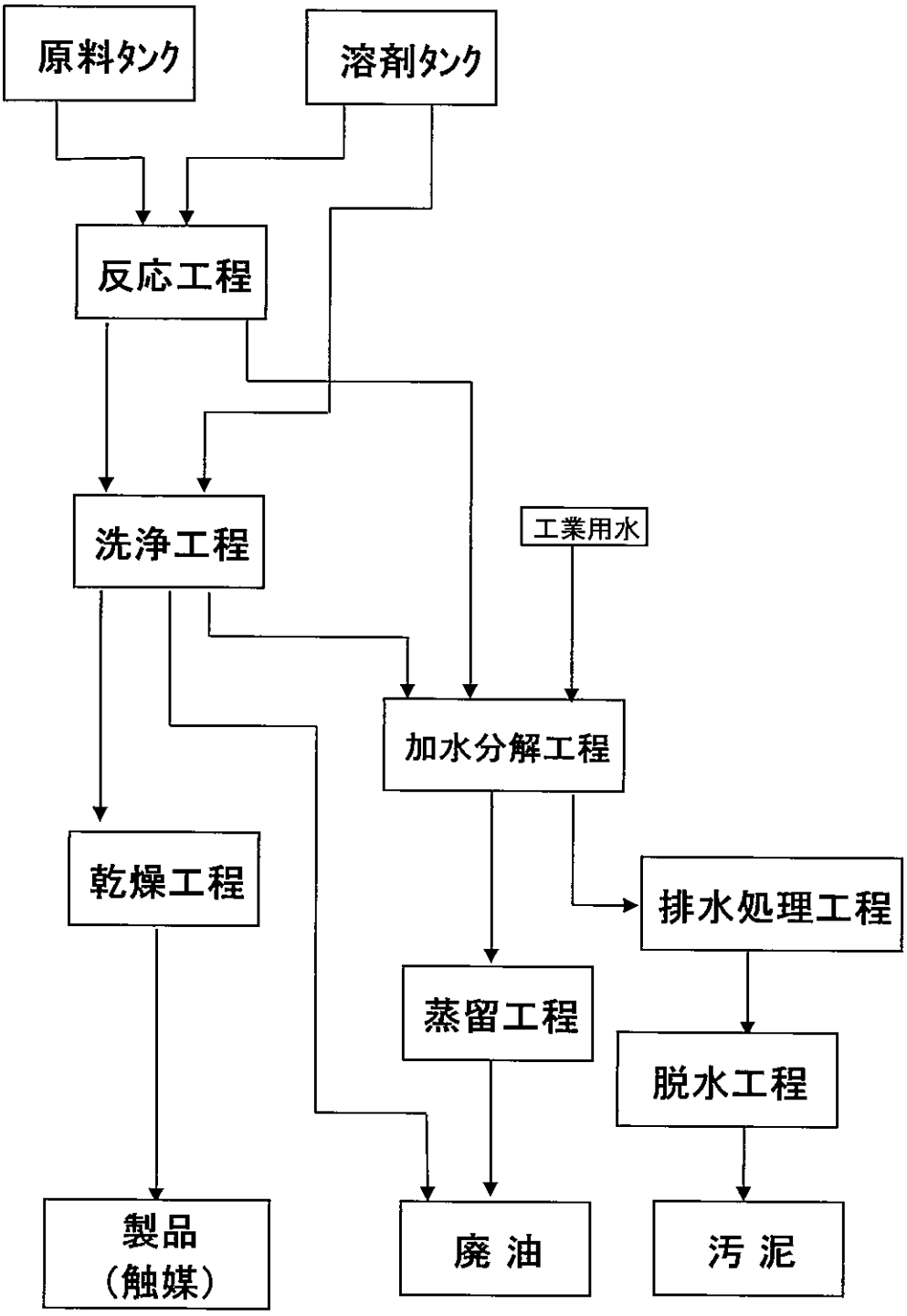
(5)環境に係わる社会活動への積極的な参加

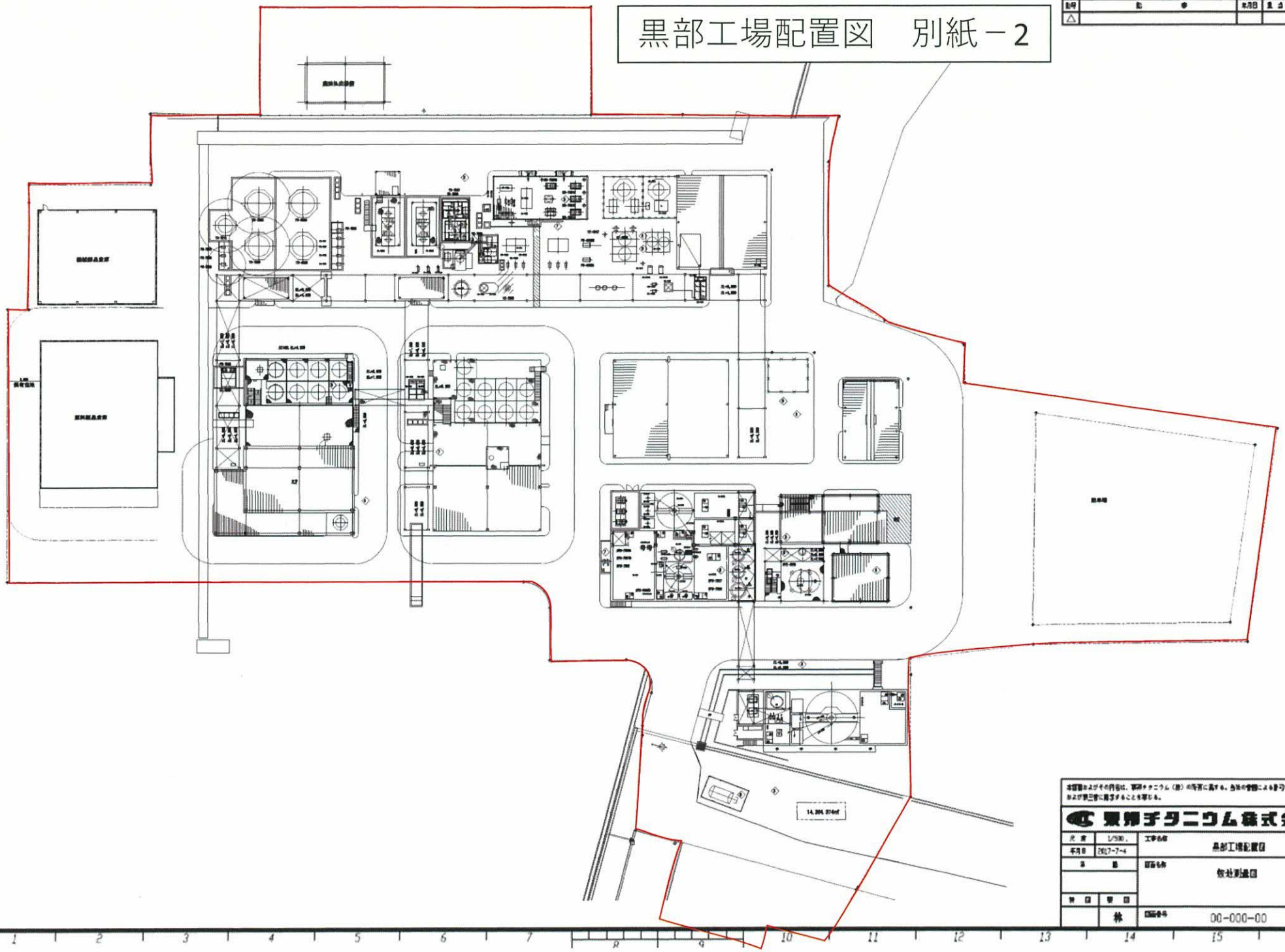
(6)グリーン購入の推進

別紙 1

廃油・汚泥発生工程図

東邦チタニウム(株)黒部工場
尾崎 雅志



原材料と発生フローにおいて、特別管理産業廃棄物に
該当する塩素系溶剤及び重金属は含まれておりません。

黒部工場配置図　別紙－2